

## スマートフォンを活用したジオパーク地図資産の活用 Effective Use of Map Assets of Geopark by Smart Phone Services

本宮康年<sup>1</sup>, 堤啓<sup>1</sup>, 中村舞<sup>1</sup>, 周藤利通<sup>1</sup>, 勝部 圭一<sup>1\*</sup>, 高橋真知<sup>2</sup>

Yasutoshi Motomiya<sup>1</sup>, Akira Tsutsumi<sup>1</sup>, Mai Nakamura<sup>1</sup>, Toshimichi Suto<sup>1</sup>, KATSUBE, Keiichi<sup>1\*</sup>, Machi Takahashi<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 北海道地図株式会社, <sup>2</sup> 株式会社 ATR-Promotions

<sup>1</sup>Hokkaido Chizu Co. Ltd., <sup>2</sup>ATR-Promotions, Inc.

現在、日本国内には4か所の世界ジオパーク、16か所の日本ジオパークが登録されており、また現在、登録を目指している地域・団体も10か所以上に上り今後もますます拡大すると予想される。これらのジオパークにとって地域における“ジオ”な魅力や情報をどのように住民や訪問者に向けて発信するかが大きな課題となっている。例えば日本ジオパークネットワークへの加盟申請に当たっては「ジオに関する出版物、ガイドブック、教材などが作成されているか」「ジオサイトの一般向けの説明(説明板、パンフレットなど)は十分か」「説明板、ガイドマップ、ガイドブック、パンフレットは多国語化している」などが評価項目として上げられており(日本ジオパーク委員会:2009)、ジオパークにおける多種多様な情報をガイドマップや説明板など様々な形で発信・活用することが求められている。またジオパークを擁する地域ではこれらとは別に、既に自治体や観光協会などによって各種の観光マップやガイドマップなども多数整備されており、こうした情報もジオパークを訪れる観光客にとっては必要不可欠なものとなる。

今回我々は、これらの様々な空間情報・地図情報をクラウド上にアーカイブし、位置情報付きで発信するためのプラットフォーム「ちずぶらり」を用いて開発した、携帯端末向けのアプリケーション「ジオパーク」に関して紹介する。「ちずぶらり」は専用の編集システムを用いることによって、古地図やイラスト地図、鳥瞰図などのように正確な位置精度を持たないデフォルメされた地図情報であっても位置情報を付加できることが最大の特徴であり、ジオパークにおける各種の地図資産を有効に活用することが可能となる。ジオパークの保有する各種の地図情報はクラウド上に登録・アーカイブされジオパークを訪れる観光客に発信される。利用者は自信の携帯端末にクラウドサービスからアプリケーション「ジオパーク」をインストールすることによって、GPSによる位置情報と連動した形で地図を閲覧することが出来る。また目的に応じて地図を切り替えることも可能なので、ジオサイトのガイドマップ、観光地図、地質図、ハザードマップなどの複数の地図を事前に用意することによって利用者のシチュエーションに応じた地図を提供することが可能となる。

また「ちずぶらり」には地点毎に写真、音声、動画、説明文などの位置情報も併せて登録できるので、地図だけでは不足するピンポイントの情報を提供することも可能である。2011年9月の日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会に伴って開催されたジオツアーではガイドの持つタブレットPCに本アプリケーションをインストールし、ジオサイトでの現地説明に用いられた。ツアー参加者は自信の携帯端末に同じアプリケーションをインストールすることによってジオツアーを追体験することも可能となる。

キーワード: ジオパーク, スマートフォン, GPS, 情報共有

Keywords: geopark, smart phone, GPS, transmitting information

